⑤⓪:身近な自然を楽しむ：今年の猛暑の夏に咲いた花たち

Enjoy the surrounding nature: Flowers bloomed during this hot summer.

9/3/2024　吉野輝雄

気象庁によると、今年の夏（6–8月）の平均気温は平年よりも1.76℃高く、これまでの最高であるという。体験的にも30℃を超える猛暑日が何回もあり、昼間外出すると熱気に包まれ、身の危険を感じたのは、私だけでないだろう。その上に8月末には大型台風10号がのろのろと日本各地に大雨を降らせ、水災害をもたらした。人間の飽くなきエネルギー消費が“地球温暖化”の要因であるという警告を身近に感じさせられているが、気象専門家は今すぐ対策すれば何とかなるが数年遅れると元に戻れないと言う。果たして、世界ｈ（私たちは）本気で取り組もうとしているか？

さて、今回は猛暑の中で逞しく成長し花を咲かせている植物に目を向けてみた。彼らにとって気温が2℃上がっても問題になるどころか十二分の太陽エネルギーを吸収してたくさんの花を咲かせる好機（条件）になっているのかも知れない。

実際に芦花公園内のヒマワリ(向日葵)は例年以上に見事に（大小異なる種類の花を数十本も）咲き揃っていた。しかしこれは、朝早くから「花の丘」のヒマワリはじめ多くの花を手入れされている児玉さんや維持メンバーのおかげがあってのこと、敬意と感謝を表したい！

以下、猛暑を謳歌している草木の花に注目する。

先ず、真夏に咲くユリ（百合）2種：カノコユリ(鹿の子百合)と猛暑のせいか花いっぱいのテッポウユリ(鉄砲百合)。

サルスベリ(百日紅)は、その名の通り一夏通して咲き続ける、言わば猛暑よ来い、と夏を謳歌している植物。そのため夏の道路を彩る街路樹として有名だ。

ムクゲ(木槿)とフヨウ(芙蓉)はアオイ科で、熱帯・亜熱帯植物であるハイビスカスの仲間。涼しげな姿を見せているが、夏に強いワケだ。

ノウゼンカツラ(凌霄花)は、暑い盛りに濃いオレンジ色の花がいくつも枝垂れて咲くので真夏を代表する花の一つだ。

キョウチクトウ(夾竹桃)は、1945年8月6日に広島で被爆し、灼熱に晒されたにも拘わらず翌年に花を咲かせた。その生命力が被爆した人々に勇気を与えた。

メマツヨイグサ(雌待宵草)：繁殖力が強く、荒れ地にはびこっている。待宵草(月見草)よりも花が小さい。北アメリカからの帰化植物。

カラスウリ(烏瓜)：垣根を覆うように生える蔓植物で、白い糸状の花が特徴。朝露を抱えた姿は何とも初々しい。その実は赤い卵の形で、中の種は座禅姿の大仏に見えるので財布の中に入れておくとお金が減らない、とされた。

最後は、マツバボタン(松葉牡丹)：今では様々な園芸種が作られているが、写真は、昔ながらの素朴で美しい赤紫の花。